



答弁中の平松町長

交通

### 各交通機関を補完 コミュニティバスの現状は

**問** コミュニティバスは、関係者や関係機関の協議により路線が決定されていると思いますが、現在、生活用品の購入や病院の通院など利便性を考慮した路線になっていない、との住民の声を聞きます。

例えば、城山区の場合、トライアルやAコープなどは直接行けず、乗り換えて目的地に行きます。時間もかかります。西鉄バスとの路線の競合はできないことは分かっています。

**答** 吉川まちづくり課長  
コミュニティバスはJＲ、西鉄バス、タクシーなどの各交通機関を補完する路線として調整を図っています。路線変更には、数年間の調査分析と計画策定、道路交通法規関係の警察協議、地域公共交通協議会、運輸局の認可申請・決定を経て、事前準備、住民への周知、と時間をかなり要します。個人の目的に全て沿うことはできませんが、利便性のよい公共交通網が構築できればと思っています。



三角 栄重 議員

**答** 平松町長  
さまざまな要望が出てくると思います。

が、極力知恵を絞り構築できたらと思います。

医療

### 健康保険法の改正による影響は 支援策を検討・実施

**問** 今年4月から出産育児一時金が50万円に引き上げられました。この分の予算を、75歳以上の人が加入する後期高齢者医療制度からも捻出するとしています。具体的には、今の上限66万円から2024年度は73万円、2025年度は80万円に上がります。中小企業の従業員が加入する協会けんぽの負担は減らすとしています。

年金生活者が増えている現状を考えると物価高に追いついておらず、今後も生活苦の人が増えると思いますが、何か対策は考えていますか。

**答** 百田住民課長  
子育てを社会全体で支援する観点から、高齢者1人当たりの保険料と現役世代1人当

**答** 平松町長  
後期高齢者医療被保険者の負担増の問題は、糟屋郡の町長会として、国へ要望をあげてもらえないか、県の町村会へ提案しようと思っています。

# 町政を問う！

デジタル

### 本町におけるDXの現状は 導入・活用を検討中

**問** 近年におけるDX<sup>※1</sup>の推進は、民間企業、自治体、教育現場と今日の生活や業務の中に浸透しつつあります。現在、業務効率化や地域課題の解決のために、AIを活用し、実証実験や本格導入を検討されている自治体もあります。

町長は、DXの推進について、今後取り組みなければならぬ課題があり、本町にお

いては「まずは情報収集や課題解決に向けた推進体制の構築を行い、このデジタル化の波に乗り遅れることなく行政サービスの向上を図って行きたい」との考えを示されました。

そこで、本町のDXの推進についてお尋ねします。

**答** 諸石総務課長  
業務のデジタル化は主に行政サービスの改善に向けて進められています。自治体情報システム標準化・共通化やマイナンバーカードの普及促進、オンラインでの手続きや申請、電子申請の導入、電子決裁システム、RPA<sup>※2</sup>の導入などがあげら



川口 満浩 議員

れます。

しかし、デジタル化の進展にはいくつかの問題点や課題が存在します。情報セキュリティの確保、高齢者やデジタル機器に不慣れな人々への配慮、必要な情報を得るためのインフラ整備などです。他にも初期投資や技術的な専門知識の必要性もあります。これらの課題に対しては、予算や人材の確保、適切な情報管理体制の構築を行い、安全かつ安心して利用できるサービスの提供を目指していきます。

対話型AIの活用については、個人情報等の適切な取扱いや人間の判断の温かみの必要性を考慮しなければなりません。そのため、活用については適切な導入方法を慎重に検討していきます。



映像配信



映像配信

※1 DXとは、デジタル技術を用いた変革により、ビジネスや人々の生活を発展させること。

※2 RPAとは、人間がパソコン上で行っている業務を、ロボットが自動化し実行するツールのこと。

